

地域活性の協働プログラム

地域貢献企画に就労訓練プログラムを活用



社会福祉法人土穂会（千葉県いすみ市）
はじめての一步農場 内野美佐

地域活性の協働プログラム

地域貢献企画に就労訓練プログラムを活用

ENEOS

リニューアブル・エナジー

休眠預金活用事業

資金分配団体：日本フィランソロピー協会・農協観光

実行団体：社会福祉法人土穂会 はじめの一步農場



社会福祉法人土穂会（千葉県いすみ市）

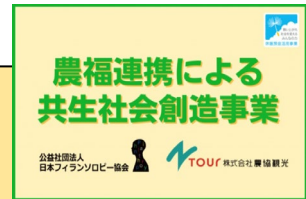
はじめの一步農場 内野美佐

事業のロジックモデル

中長期
アウトカム

事業終了後2年後（2029年3月）までに

- ・就労困難者にとって農業が有力な就労の選択肢となり、就労環境が整備され、一緒に働く人も全員が生き生きと就労できている（多様な人材が活躍できる環境整備）
- ・福祉法人以外の多様な組織が農業との関わり（就農・加工所等）を支援する活動が、地域に定着している（農福連携に取り組む組織の拡充）
- ・農福連携の事業収益が向上、継続的な雇用維持、新規就労者の拡大等が図られ、当該事業が経営的に自走している（農福連携による事業化の実現）
- ・農福連携の取り組みが広く認知され、農作物の購入やボランティア活動等に地域企業、学校、住民等が積極的に参画している（農福連携による地域共生社会の実現）



就労困難者の変化

（福祉法人を含む）地域の変化

（主に経営部分での）農家の変化

短期
アウトカム

（01）事業実施の結果農業を通じて地域の就労困難者が生き生きと就労できている。指標としては就労者の能力やモチベーション（できること、出勤率、労働意欲、関わる人の広がり等）

02)事業実施地域において、実行団体の農福連携の推進機能が強化され、福祉団体・就労困難者と農業者への積極的なマッチングが進んだ結果、多様かつ複数の福祉団体と農業者との連携が進み、農業に参加する就労困難者が増加している

03)資金分配団体による研修への参加の結果、農福推進リーダーと農業就労サポーターが地域の農福連携の取り組みを推進、支えている。

04)事業実施地域において、農福連携説明会・就労体験会の実施の結果、福祉団体、農業者双方の農福連携への理解が深まり、参画者が増加している

05)事業実施地域において、取り組みの発信、ボランティア体験会の実施の結果、農福連携への理解が進み、農作業や販売における地域住民や企業等からのボランティア等、事業への理解・支援者である農福応援団を獲得・定着している

06)事業実施地域において、作業分解の取り組みや施設整備、就労困難者の作業習熟により、全体としての生産性が上がり、生産量が増加している

07)事業実施地域において、新規商品開発、協力企業の獲得、新規販売ルートへの営業等を通じて、農福連携を通じた農作物や六次化商品の種類が増え、販路が拡大し、地域農業にも寄与している。

活動

（01）①就労意欲の評価
(02)(03)(04)(05)(06)(07)
＜就労に関わる関係者の評価＞
・受入農家や福祉団体、就労支援者向けにアンケートを実施する（評価項目：作業態度、意欲、チームでの協調性など）
・日常的に関係者と随時意見交換を行う
＜はじめの一步農場による評価＞
・実習者に対してはじめの一步農場側が実習を通し就労評価アセスメントを実施し（JEEDのアセスメントシート利用）実習者本人と支援者に共有し、3者で評価にあたる

（02）①本事業に関わる就労困難者の数
(01)(03)(04)(06)(07)
・個別農業体験会や見学会を随時実施
・体験会参加者へのアンケート実施（満足度、学び、継続希望の確認）
・体験会後のフォローアップ連絡（継続トレーニングの案内）

（03）①農福推進リーダーによるスキルやノウハウ提供
(02)(04)(05)(06)(07)
・農福推進リーダーによる研修プログラムの実施(農福連携サポーター育成)
・夷隔地域内外で随時フォローアップ

（04）①本事業に賛同し、参画する福祉団体と農業者の数
(01)(02)(03)(06)(07)
・農福連携説明会の実施：地域福祉団体や農業者に向けて連携の意義や事例を共有する説明会を開催
・個別訪問：農業者や福祉団体を直接訪問し、参加意欲を確認
・フィードバック収集：説明会後にアンケートやヒアリングを通じて参加者の意見を収集

（05）①応援団として参加する個人・企業等の数と関わり方
(01)(02)(03)(04)(06)(07)
・地域内外の企業・個人への農福連携の意義を説明し、参加を促進

（06）①生産性の向上（労働時間に対する成果物の増加）
(01)(02)(03)(04)(07)
・作業分解と標準化：作業プロセスを細分化し、効率的な作業手順見直し、治具の活用等
・現場フォローアップ

（07）①生産品目の増加
(01)(02)(03)(04)(06)
・商品開発会議：農作物や地域資源を活用した新商品アイデアの議論
・試作品作成：試験的な加工やパッケージング
・顧客評価：試作品に対するフィードバック収集

（01）②就労訓練者自身がやりがい・生きがいを実感する02)(03)(04)(05)(06)(07)
・個別能力、状態に合わせた段階的なプログラム提案・実施
・実習後、自己評価シートをもとにキャリア面談とf10-
・農福推進リーダー及びはじめの一步農場のスタッフの障害者支援・就労支援スキル向上を目的とした視察・講習・研修会参加

（02）②本事業で就労できた就労困難者数
(01)(03)(04)(06)(07)
・就労支援者と協働し就労希望者をフォロー
・雇用後のフォローアップ支援（作業環境の調整、継続支援の相談窓口設置）

（03）②農福連携サポーターの多様性 (02)(04)(05)(06)(07)
(01)(03)(04)(06)(07)
・サポーター募集説明会の開催
・サポーター向けの基礎トレーニング（農業作業、安全指導）

（04）②マッチングした団体・対象者の数
(01)(02)(03)(06)(07)
・マッチング支援：事務局が団体・農業者のニーズを把握し、適切な組み合わせを提案
・フォローアップ：マッチング後の進捗確認や課題解決を支援
・成功事例の共有：マッチングが成功した事例をレポート化し、他団体や農業者への啓発資料として活用

（05）②応援団を増やす活動
(01)(02)(03)(04)(06)(07)
・ボランティア体験会の企画運営
・ボランティア募集のための広報活動（SNSなど）
・商工会、地域活動に参加
・積極的に講演、研修、取材、視察、見学呼びかけを行う
・地域連携先の応援（活動にあわせたアワードへの推薦、押し出し等）
・企業のCSR希望に沿った提案

（06）②給与・工賃
(01)(02)(03)(04)(07)
・給与、工賃UP支援

（07）②農福連携を通じた農作物の販売ルートの確保
(01)(02)(03)(06)
③農福連携を通じた農作物の販売先の数
・営業活動：候補先との交渉や試験販売の実施

（01）③支援者との連携
(01)(03)(04)(06)(07)
・就労困難者のキーマンである支援者との関係作り、ニーズ把握。（講演・地域活動等行う）

（02）③就労困難者の多様性
(01)(03)(04)(06)(07)
・多様な属性（A型、B型、ひきこもり、シニアなど）の就労困難者を対象とした募集活動（福祉団体や自治体との連携）
・各属性の特性に応じた柔軟な就労プラン提供（短時間勤務、軽作業中心）

（03）③農福連携サポーターの貢献度 (02)(04)(05)(06)(07)
(01)(03)(04)(06)(07)
・作業環境改善のための提案、フィードバックができる
・サポーターによると対象者の支援実施

（01）①就労意欲の評価
(02)(03)(04)(05)(06)(07)
＜就労に関わる関係者の評価＞
・受入農家や福祉団体へのアンケート結果
・役割分担をしながら地域で支援する意識や仕組み
＜はじめの一步農場による評価＞
・事例単位の就労アセスメントデータ
・アセスメントを取る支援者側に必要なスキル、心構え、試行錯誤、過程を資料とする

（02）①本事業に関わる就労困難者の数
(01)(03)(04)(06)(07)
・農業体験会や見学会への参加者リスト
・体験会や研修の実施回数と参加人数
・体験会参加者のアンケート結果

（03）①農福推進リーダーのスキルやノウハウ提供
(02)(04)(05)(06)(07)
・農福推進リーダー活動報告書
・リーダーが主導したプロジェクトや連携事例

（04）①本事業に賛同し、参画する福祉団体と農業者の数
(01)(02)(03)(06)(07)
・参加福祉団体と農業者のリスト
・農福連携説明会の参加者リスト

（05）①応援団として参加する個人・企業等の数(01)(02)(03)(04)(06)(07)
・企業や個人のボランティア参加リスト
・参加企業の感想や成果をまとめたリスト

（06）①生産性の向上（労働時間に対する成果物の増加）
(01)(02)(03)(04)(07)
・労働時間ごとの成果物データ
・生産性向上のための作業手順書
・労働効率改善の実施記録

（07）①生産品目の増加
(01)(02)(03)(04)(06)
・新規商品や加工品の開発記録

（01）②就労訓練者自身がやりがい・生きがいを実感する(02)(03)(04)(05)(06)(07)
・当事者による自己評価によるビフォーアフター
・内部育成：はじめの一步農場スタッフ向けの研修プログラム内容、支援者としてのあり方、農場デザイン等の見える化

（02）②本事業で就労できた就労困難者数
(01)(03)(04)(06)(07)
・就労者リスト（雇用先や進路先把握）

（03）②農福連携サポーターの多様性 (02)(04)(05)(06)(07)
(01)(03)(04)(06)(07)
・農福連携サポーターの参加者リスト（企業人、地域住民、学生などの背景データ）

（04）②マッチングした団体・対象者の数
(01)(02)(03)(06)(07)
・マッチング成立リスト（福祉団体と農業者、対象者と受入先の詳細）
・マッチング成功事例のレポート

（05）②応援団を増やす活動
(01)(02)(03)(04)(06)(07)
・ボランティア体験会内容
・広報活動内容
・ネットワークづくりをかねた地域活動
・講演、研修、取材、視察、見学リスト
・当地域での社会課題解決活動実践者の活動促進、活動の広がり
・企業の多様な関わりモデル
・地域を社会教育の場にするための工夫

（06）②給与・工賃
(01)(02)(03)(04)(07)
・労働者ごとの給与・工賃の記録

（07）②農福連携を通じた農作物の販売ルートの確保
③農福連携を通じた農作物の販売先の数
(01)(02)(03)(06)
・新たな販売ルートリスト

（01）③支援者との連携(02)(03)(04)(05)(06)(07)
・関係者に「場」を使ってもらうためのポイントの見える化

（02）③就労困難者の多様性
(01)(03)(04)(06)(07)
・就労困難者の属性データ（A型、B型、ひきこもり、シニアなど）

（03）③農福連携サポーターの貢献度 (02)(04)(05)(06)(07)
(01)(03)(04)(06)(07)
・対象者の働きやすさに関する改善事例
・生産性向上事例

（05）③応援団の多様性獲得
(01)(02)(03)(04)(06)(07)
・ボランティアの職業や背景（企業人、学生、地域住民など）のリスト

（07）③地域マルシェ開催や参加
(01)(02)(03)(06)
・地域マルシェの出店記録（参加回数、販売データ）

（07）④商談会への参加数
(01)(02)(03)(06)
・商談会での活動記録（参加企業リスト、商談結果報告書）

（07）⑤売上高
(01)(02)(03)(06)
・ヒアリングまとめ（作物、商品、取組み別等のデータ）

アウトプット

事業のロジックモデル

中長期
アウトカム

短期
アウトカム

活動

アウトプット

事業終了後2年後（2029年3月）までに

- ・就労困難者にとって農業が有力な就労の選択肢となり、就労環境が整備され、一緒に働く人も全員が生き生きと就労できている（多様な人材が活躍できる環境整備）
- ・福祉法人以外の多様な組織が農業との関わり（就農・加工所等）を支援する活動が、地域に定着している（農福連携に取り組む組織の拡充）
- ・農福連携の事業収益が向上、継続的な雇用維持、新規就労者の拡大等が図られ、当該事業が経営的に自走している（農福連携による事業化の実現）
- ・農福連携の取り組みが広く認知され、農作物の購入やボランティア活動等に地域企業、学校、住民等が積極的に参画している（農福連携による地域共生社会の実現）

土穂会

就労困難者の変化

（福祉法人を含む）地域の変化

（主に経営部分での）農家の変化

多様な就労困難者が

- ・ 生き生きと就労している
（就労に向かっている）
- ・ 次の一步へ踏み出している

・ 地域の支援機関と協働

互いに必要な関係となるには

・ 就労訓練プログラム

- # 安心・安全な場 # 園芸・農作業
- # キャリア面談 # 自分で選択する
- # 自分の現在地を知る # 就労アセスメント
- # 就労プログラムのユニバーサル化

・ 見える化、構造化、共有化

- # 場の設計 # プログラム設計
- # 支援者の在り方 # 継続のための出口戦略

ナチュラルサポーターな地域づくり

- ・ 多様な農福連携サポーター活躍
- ・ 応援団獲得（地域内外巻き込む）
（農業、福祉、企業、個人、学生等）

・ 農福連携サポーター研修

千葉県パンフ活用 # 個々に対応

・ 応援団獲得のための活動

- # 講演 # 視察対応 # メディア
- # 推し活 # 情報発信 # 協働

・ ノウフクマッチング

- # 農家と地域の福祉事業所つなぐ
- # 仕組化する

農業の生産性向上、新商品開発

工賃向上

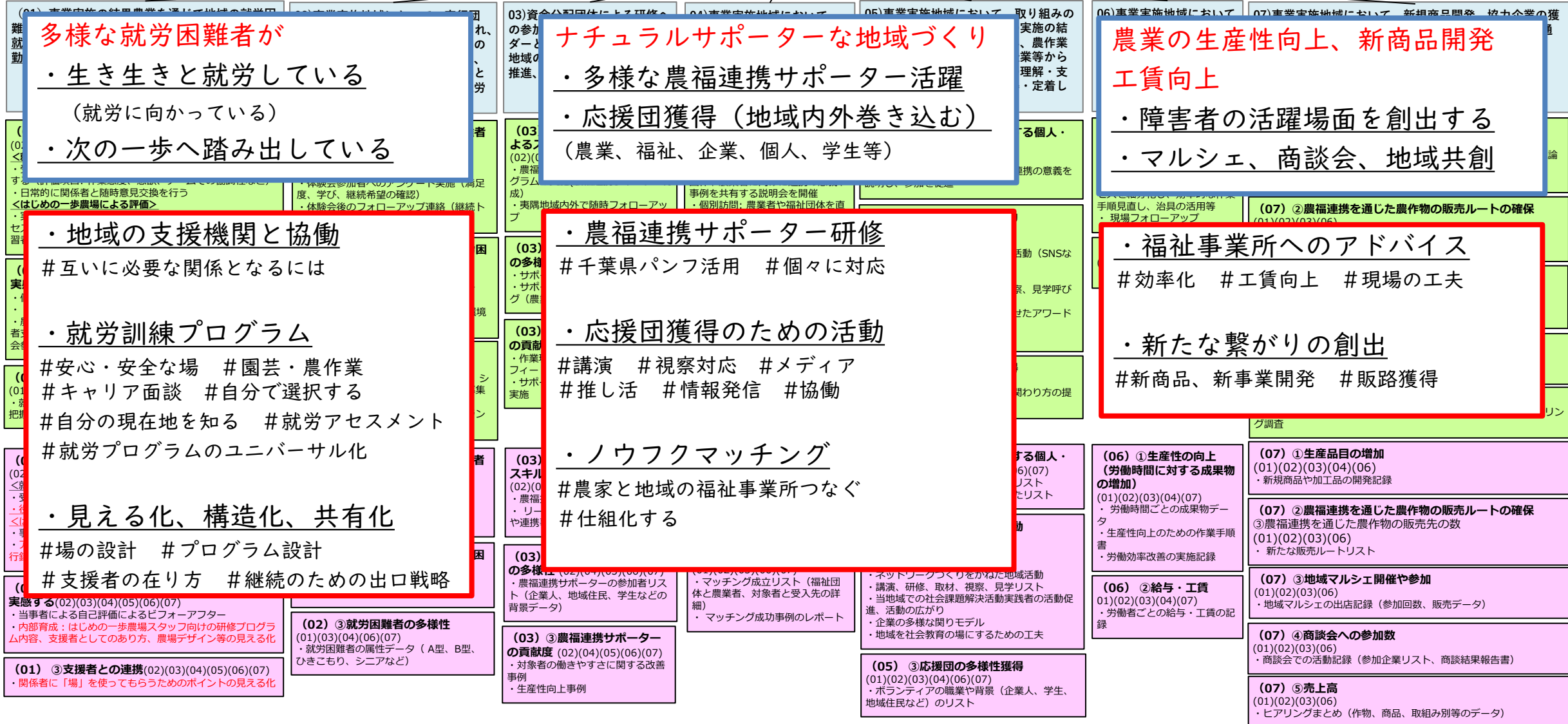
- ・ 障害者の活躍場面を創出する
- ・ マルシェ、商談会、地域共創

・ 福祉事業所へのアドバイス

効率化 # 工賃向上 # 現場の工夫

・ 新たな繋がり創出

新商品、新事業開発 # 販路獲得



中長期
アウトカム

短期アウトカム

活動

アウトプット

- ・就労困難者にとって農業が有力な就労の選択肢となり、就労環境が整備され、一緒に働く人も全員が生き生きと就労できている（多様な人材が活躍できる環境整備）
- ・福祉法人以外の多様な組織が農業との関わり（就農・加工所等）を支援する活動が、地域に定着している（農福連携に取り組む組織の拡充）
- ・農福連携の事業収益が向上、継続的な雇用維持、新規就労者の拡大等が図られ、当該事業が経営的に自走している（農福連携による事業化の実現）
- ・農福連携の取り組みが広く認知され、農作物の購入やボランティア活動等に地域企業、学校、住民等が積極的に参画している（農福連携による地域共生社会の実現）

土穂会

（福祉法人を含む）地域の変化

（主に経営部分での）農家の変化

- ・ 次の一歩へ踏み出している

#互いに必要な関係となるには

#安心・安全な場 #園芸・農作業
#キャリア面談 #自分で選択する
#自分の現在地を知る #就労アセスメント

#就労プログラムのユニバーサル化

#場の設計 #プログラム設計

#支援者の在り方 #継続のための出口戦略

(農業、福祉、企業、個人、学生等)

#千葉県パンフ活用 #個々に対応

#講演 #視察対応 #メディア
#推し活 #情報発信 #協働

#農家と地域の福祉事業所つなぐ
#仕組化する

(02) ③就労困難者の多様性
(01)(03)(04)(06)(07)
・就労困難者の属性データ（A型、ひきこもり、シニアなど）

(03) ③農福連携サポーター
の貢献度 (02)(04)(05)(06)(07)
 ・対象者の働きやすさに関する改善事例
 ・生産性向上事例

・当事者による自己評価によるビフォーアフター

・内部育成：はじめの一步農場スタッフ向けの研修プログラム内容、支援者としてのあり方、農場デザイン等の見える化

(01) ③支援者との連携(02)(03)(04)(05)(06)(07)

- ・マッチング成立リスト（福祉団体と農業者、対象者と受入先の詳細）
- ・マッチング成功事例のレポート

(05) ③応援団の多様性獲得
(01)(02)(03)(04)(06)(07)
・ボランティアの職業や背景（企業人、学生、地域住民など）のリスト

・マルシェ 商談会 地域共創

社会化 # 工賃向上 # 現場の工夫

#新商品、新事業開発 #販路獲得

(06) ①生産性の向上
(労働時間に対する成果物の増加)

- ・労働時間ごとの成果物データ
- ・生産性向上のための作業手順書
- ・労働効率改善の実施記録

(06) ②給与・工賃
01)(02)(03)(04)(07)
・労働者ごとの給与・工賃の記
録

(07) ①生産品目の増加
(01)(02)(03)(04)(06)
・新規商品や加工品の開発記録

(07) ②農福連携を通じた農作物の販売ルートの確保
③農福連携を通じた農作物の販売先の数
(01)(02)(03)(06)
・新たな販売ルートリスト

(07) ③地域マルシェ開催や参加
(01)(02)(03)(06)
・地域マルシェの出店記録（参加回数、販売データ）

(07) ④商談会への参加数
(01)(02)(03)(06)
・商談会での活動記録（参加企業リスト、商談結果報告書）

(07) ⑤売上高
(01)(02)(03)(06)
・ヒアリングまとめ（作物、商品、取組み別等のデータ）

実施したこと...

2026年4月11日(土)~12日(日)の1泊2日

地域貢献企画
一緒に
いかが?

千葉県いすみ市・梨の花の“受粉作業”
をお手伝いしながら1泊2日のリトリート!



主催：企画運営

ENEOS リニューアル・エナジー



プログラム実施・受入

はじめての一步農場 (社会福祉法人 土穂会)



私たちの意図
ロジックモデル
出口戦略の
1つをテスト
したい



梨の花の受粉作業体験や、農園での学び・対話を通して、
自然とふれあい、自分らしい一歩を見つける時間になりました。

はじめての一步農場プログラム

自然の中で学び、つながり、自分らしい一歩を踏み出す2.5時間。



プログラムのコンセプト

自然の中で、社会とつながり、
自分らしい働き方・生き方の一歩を見つける
はじめての一步農場で、いつもの忙しい時間を
緩やかに解きほぐし、心をととのえていく体験です。



このプログラムで
得られること

- ✓ 自然の中で心が整う
- ✓ 働く意義や自分の強みを
再発見できる
- ✓ 新たなつながりや視点を
得られる

当日の流れ (2.5時間)

1

農場案内

はじめての一步農場の想いや、
農園や人の紹介、環境でふれる



2

農業チャレンジ (梨の受粉・手入れ体験)

実際に梨の花に、農園のサポートを受け、
受粉を体験。果樹のサイクルを学ぶ



3

農園体験

はじめての一步農場の活動や事業を
知り、つながりや思いをシェア



4

自分のワークライフバランスを考えるワーク

自然の中で、感じたことをもとに
自分のライフバランスを見つめ直す



5

くつろぎタイム&ふりかえり

ハーブティーと自家製ジュースで一息。
感じたことをシェアして、気づきを分かち合う



こんな方におすすめ!

- ✓ 仕事や家庭のバランスを見つけてリフレッシュしたい
- ✓ 自然の中で、考え方を整えたい
- ✓ 新しいつながりや視点がほしい
- ✓ 自分らしい働き方・生き方を見つめたい

プログラムの特徴

- 人 少人数での対話重視 (安心して話せる場)
- 人 自然を活かしたリトリート型プログラム
- 人 福祉・地域とのつながりを体験



自然と出会い、社会とつながり、自分らしい一歩を。



スケジュール (1泊2日)

[1日目]

- 10:30 いすみ市集合・オリエンテーション
- 11:00 プログラム体験 (2.5時間)
- 13:30 昼食・交流タイム
- 15:00 ふりかえり・チェックイン
- 17:30 夕食・自由時間

[2日目]

- 7:30 朝食・散策
- 9:30 チェックアウト
- 10:00 希望者で農作業体験・自由時間
- 12:00 昼食・解散

実施場所：千葉県いすみ市 はじめての一步農場

宿泊：地域の宿泊施設 (予定)

参加対象：どなたでもご参加いただけます
(定員：〇名予定)

持ち物：動きやすい服装・帽子・タオル・飲み物など

リフレッシュ方法：自然体験・対話・ふりかえり



企業と地域が合意するまでに必要なもの？



企業 × 地域共創キャンバス

2026.6.7

① 共創テーマ

私たちは何を実現したいのか？



② 企業の目的

課題・目的 得たい価値 期待する成果

③ 地域の目的

課題・目的 解決したいこと 期待する成果

④ 共通価値 (重なる部分)

企業の価値 共通価値 地域の価値

⑤ 企業資源 (提供できること)

人材 予算・資金 技術・ノウハウ ネットワーク

⑥ 地域資源 (提供できること)

場所・施設 人・担い手 農産物・資源 地域ネットワーク

⑦ 対象者 (誰のために?)

社員・職員 地域住民 利用者・当事者

⑧ 共創プログラム (何を・どのように・誰と行うか)

プログラム内容 実施方法・スケジュール 担当・協力体制 コミュニケーション方法

⑨ 成果指標 (どのように測るか)

参加人数 満足度 行動・意識変化 その他成果

⑩ 変化・インパクト (どんな変化が起きるか)

個人の変化 関係性の変化 組織・地域の変化 社会的インパクト

⑪ 次の展開 (未来につなげる)

継続・定着 拡大・展開 事業化・商品化 資金調達・連携強化

共創プロセス
の流れ



出会う



理解する



価値を見つける



企画する



実施する



振り返る



発展させる

企業と団体マッチングに必要なものこんなあったらどう？



地域 × 企業 共創デザインキャンバス

記入日: 年 月 日

地域の価値と企業の力をつなぎ、共に未来をつくる

地域が目指す未来 (該当に✓)

自然・環境・エネルギー

- ☐ 環境保全・脱炭素
- ☐ 自然保護・生物多様性
- ☐ ごみ減量・リサイクル
- ☐ 再生可能エネルギー活用
- ☐ 水資源保全

教育・学び・文化

- ☐ 子ども・子育て支援
- ☐ 学校教育・教育環境
- ☐ 地域教育・高等教育
- ☐ 生涯学習・リカレント教育
- ☐ 文化・スポーツ振興

福祉・健康・インクルージョン

- ☐ 障害者福祉・社会参加
- ☐ 高齢者支援・介護予防
- ☐ 地域福祉・困窮支援
- ☐ 女性・子ども支援
- ☐ ひきこもり・不登校支援
- ☐ 健康づくり・予防医療
- ☐ 多様性・共生社会の実現

産業・経済・仕事

- ☐ 農業活性・6次産業化
- ☐ 商業活性・中心市街地活性化
- ☐ 観光振興・インバウンド
- ☐ 起業・創業支援
- ☐ 地域産業・新産業創出
- ☐ DX・デジタル化推進
- ☐ 雇用創出・人材育成

地域づくり・コミュニティ

- ☐ 多世代交流・コミュニティ活性化
- ☐ 移住・定住促進
- ☐ 関係人口の創出・拡大
- ☐ 地域安全・防犯
- ☐ 地域ブランディング・PR
- ☐ 伝統文化の継承・活用

防災・安心・インフラ

- ☐ 防災・減災・国土強靱化
- ☐ 地域交通・移動手づくり
- ☐ 安全・安心なまちづくり
- ☐ インフラ整備・維持

☐ その他 (自由記入)

現在の関心度 (あてはまるものに✓)

情報収集している	プレゼンを聞きたい	プレゼンを聞いてほしい	仲間を探している	協業先を探している	支援先を探している	資金提供先を探している	実証実験先を探している	まだ構っていない (自由記入)	その他
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

企業が得られる価値 (該当に✓)

社会・組織への価値

- ☐ 健康経営・ウェルビーイング
- ☐ 人材育成・リーダー育成
- ☐ チームビルディング・エンゲージメント向上
- ☐ CSR・社会貢献・企業ブランド向上
- ☐ SDGs推進・ESG・サステナビリティ

事業・仕事につながる価値

- ☐ 新規事業の探索・共創機会
- ☐ 商品・サービス開発のヒント
- ☐ 市場・顧客ニーズの把握
- ☐ 販路拡大・販売促進
- ☐ 事業の社会的インパクト創出
- ☐ DX・ソリューション強化

自社価値・文化の向上

- ☐ 自治体・公共との関係構築
- ☐ 地域課題解決による事業機会
- ☐ ダイバーシティ&インクルージョン推進
- ☐ 企業価値向上・IR強化
- ☐ イノベーション創出
- ☐ 地域とのネットワーク形成

☐ その他 (自由記入)

すでに地域で取り組んでいる活動・プロジェクト

共創テーマ (共に実現したいこと)

大切にしたい価値・想い

企業が提供できる資源・サポート (該当に✓)

人材・スキル	資金・寄付・協賛	技術・ノウハウ	IT・デジタル
設備・施設の提供	デザイン・企画力	広報・PR	マーケティング
販売チャネル・販路	物流・輸送	専門知識・コンサル	ネットワーク・連携

☐ その他 (自由記入)

地域が必要としている資源・サポート (自由記入可)

人材・ノウハウ 資金・寄付・協賛 技術・知識 ネットワーク・つながり 設備・施設・場所 その他

学ぶ・知る

- ☐ 視察・見学
- ☐ 講演・セミナー
- ☐ フィールドワーク
- ☐ 勉強会・交流会
- ☐ その他 (自由記入)

体験する

- ☐ 農作業・収穫体験
- ☐ 地域イベント参加
- ☐ ボランティア活動
- ☐ 地域の仕事体験
- ☐ その他 (自由記入)

企業の参加メニュー (関わりたい活動を選んでください)

☐ 短期的に参加したい ☐ 中長期的に参加したい ☐ 継続的に関わりたい

共に創る・取り組む

- ☐ 商品・サービス開発
- ☐ 共同研究・実証実験
- ☐ プロジェクト共創
- ☐ 協業・パートナーシップ
- ☐ その他 (自由記入)

応援する・支える

- ☐ 寄付・協賛
- ☐ 備品・物品の提供
- ☐ プロボノ・スキル提供
- ☐ 専門家派遣・助言
- ☐ 情報提供・SNS拡散
- ☐ その他 (自由記入)

つなげる・広げる

- ☐ ネットワーク紹介
- ☐ 自社他・団体との橋渡し
- ☐ 情報発信・PR協力
- ☐ 販路・取引先の紹介
- ☐ イベント等への招待
- ☐ その他 (自由記入)

投資・事業化する

- ☐ 事業共創・共同出資
- ☐ インパクトビジネス支援
- ☐ 地域課題の事業活用
- ☐ スタートアップ支援
- ☐ その他 (自由記入)

共創によって生まれる変化・インパクト

- ☐ 個人 (参加者・社員)
- ☐ 企業・組織
- ☐ 地域・団体
- ☐ 社会・未来

メモ・気づき

共創プロセスのステップ

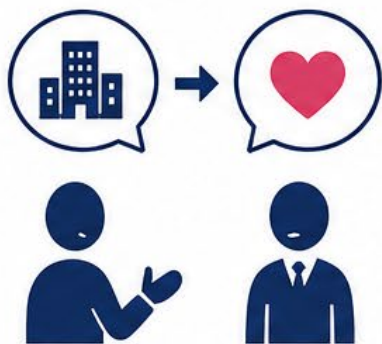
1. チェックする (関心のある項目に✓を入れる) > 2. 重なる価値を見つける (共通点や強みを確認する) > 3. 共創テーマを言語化する (実現したいことを描く) > 4. 関わり方を選ぶ (できることから始める) > 5. 変化をイメージする (未来のインパクトを描く)

企業と共創するために 私たちの気づき



1

企業の言葉で
伝える



2

企業を理解する



3

共有しやすい
形にする



4

報告を
大切にする



5

取り組みを
発信する



私たちが準備しておくこと



1

自分たちの活動の言語化



2

共創できることをメニュー化



3

出合いの場に
積極的に向かう



- マッチング会
- 交流会
- 報告会
- セミナー など